

# 社会に出てもがんばれ

秋山 鉄子さん  
食堂自営 中丸(44歳)



我が家には高3の娘と中3の息子がいる。そろって卒業である。小さいながらも食堂を始めてはや8年。子供たちにとって一番大事な時期に、毎日の雑用に追われ思うように面倒をみてやれず卒業となってしまった。いま、アルバムを眺めながら1年1年のその子なりの成長を感

無量で味わっている。  
高校卒業の娘は、3年間強い雨風にも負けず自転車で通いとうした。無遅刻、無欠席で、無駄遣いもせず、友達を大切に、自分が決めた目標を一心に実行してきた。それをいま、息子が娘から与えられた課題として、娘に負けずがんばると約束した。  
社会へ巣立つ娘は、この先、人間関係やいろいろな問題で悩むときもあると思うけど、自分に負けないでがんばって欲しいと願っている。

# 卒業式に歩いていった息子

吉田 夏子さん  
会社員 百合ヶ丘(48歳)

私の長男は卒業式の前日に、自宅から清水東高まで、40駅に近い道を一人で夜、歩いて行きました。長男は「昔はみんな歩いて学校へ行ったのだ。今日は最後の日だから歩いていく。」と言って出かけていきました。



卒業式の日、息子の姿を見つけたとき、「やったね、典之君」と思わず胸をなでました。  
冬の朝、暗いうちに家を出て、勉強にも部活動にもがんばった息子は、在学中に1年間アメリカへ留学、また、オーストラリアへも文部省の科学奨学生として行きました。  
卒業式の日名古屋大学への合格も決まりました。  
私は校舎に向かって、「4年間在席させていただきありがとうございます」と言って帰りました。

東は千葉県、西は広島県から寄せられた応募作品は計七百八十五点。セミプロのような大人の作品もある中で、見事市長賞を受賞した鈴木君。感想は「信じられない。学校で応募要項をもらい、元来懸賞等が好きなので、軽い気持ちで応募した。作品は街で見かけた標語をヒントにすぐひらめいたという。」



昭和四十五年生まれとあって、生まれながら新富士市民。合併は実感としてはわからないが、今の富士市には、「街の核がない、新幹線がでることによって、どんな街になるか楽しみ。ふだん気軽に、行けるような公園が欲しい。」との注文。  
自分の性格を「あきつぽい」と分析するが、「将来は、公認会計士になりたい」と、はつきりした目標を持っている。ちなみに賞金は三万円。使いみちを尋ねると、「友達に少しはおごらなきゃならないかな。」と紺のブレザーを揺らしながらあどけなく笑った。



「新たな創造 確かな発展」  
—はたちの富士市—  
新市20周年記念キャッチフレーズで市長賞を受賞

すずき ひろあき  
**鈴木広昭さん**  
横割1丁目 富士東高1年